

fab C.

研究室メンバー

教授 伊藤香織
助教 高柳誠也

D1	一谷和希	常泉佑太							
M2	阿部萌子	岩田采子	上野亜耶	酒井亮祐	須藤里佳	前田旭陽			
M1	岡村隼多	金沢優輝	孫溪澤	田中里実	土屋遼太郎	徳永景子	東裕花里	結城和佳奈	
B4	天野航一	大森彩香	大山優	岡野遼太郎	北村公佑	木山秀一	坂口太一	鳥茉莉香	
	中積弥恒	平井聡一郎	室賀恒輝						

2022 Printed in Japan 祥美印刷株式会社

fab C. vol.16
2022年1月1日発行

編集 天野航一・北村公佑
発行 東京理科大学理工学部建築学科
伊藤香織都市計画都市デザイン研究室

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641
04-7123-4785 (研究室直通)
<https://www.rs.node.tus.ac.jp/~fab/>

特集 フィールドに出る。

fab C.

fabulous City&Creativity&Curiosity

- ▶ 金沢21世紀美術館 調査・ワークショップ
- ▶ ピクニックインタビュー
- ▶ 金石ワークショップ・滞在調査
- ▶ 唐桑半島調査
- ▶ 研究室・個人活動
- ▶ 論文・設計

vol.
16
2022
January

ご自由にお持ち帰りください

i-Lab

フィールドに出る。

COVID-19による行動制限で、2020年はフィールドに出られない日々が続きました。2021年は、十分な感染対策を心掛けながら、フィールドとの再接続を試行しました。金沢21世紀美術館との共同研究では、美術館の芝生広場の調査分析とワークショップ、金石スタジオを拠点とした金石地区の調査を行うとともに、金沢21世紀美術館でフィジカルディスタンスングピクニックの実践をしました。東日本大地震以降折に触れ訪れている唐桑半島では、屋号まちなみや地形と屋号の関係を実地調査しました。研究会や個人でも少しずつですがフィールドに出て調査を始めています。都市や地域そのものから得られる情報はなんと豊潤なことかと再認識する日々です。



▶ 作品の写真を撮る



▲ 園路が交差する場所



▲ 子供が作品で遊ぶ

建築作品として著名な美術館ですが、パブリックスペースとしてはどのような性質を持っているのでしょうか。それを知るために、6月と8月に美術館の屋外空間の使われ方調査をしました。コロナ禍で閉館中ではありましたが、その性質が見えてきました。卒論の分析を通して、美術館要素が人を惹きつけ公園要素が人を留ませる、「まちに開かれた公園のような美術館」のあり方を見出しました。(B4 大森・大山)

▼ 椅子に座って休憩をする



▶ 作品を体感する



▲ 木陰で涼しむ

金沢21世紀美術館 共同研究 屋外空間調査

オープンまるびい 公園のように美術館で過ごしてみよう!

レクチャー&ワークショップ

11月3日の市民美術の日オープンまるびいに合わせて、美術館の屋外空間での過ごし方に関するワークショップを開催しました。公共空間や金沢の歴史や地形に関するレクチャーと今年度行った観察調査とアンケート調査の報告の後、参加者に実際に屋外空間で過ごしていただきました。各自2ヶ所以上、1ヶ所あたり5分以上過ごして居心地や周りの様子を記録し、その後、グループに分かれて気づいたことを共有しました。意見交換を通して、調査だけでは分らなかったいろいろな気づきがありました。ホワイエには調査結果の展示もして、より多くの方にご覧いただきました。(D1常泉、M1東、B4大森・大山ほか)



上/報告、WSファシリテーション、ポスター設営の様子
下/携わった全員でOのポーズで一枚



野田会場では、仮配属の3年生も参加してくれました!



上から順に/高柳助教持参のコーヒーを配るB4中積/伊藤教授のピクニックセット/近江町市場で買ったりんご/金沢会場にはご当地の物がたくさん

金沢21世紀美術館&東京理科大学野田キャンパス フィジカルデイスタンディングピクニック2

昨年に引き続き、新たなピクニックの実践です。ディスタンスが取れるラグの使用、個包装のフード、マスク着用やアルコール消毒、各自の居心地を求めて移動などは昨年と同様。今年は音声オンライン中継して、金沢会場と野田会場の2ヶ所で実施し、全員が参加しました。快晴の空の下で交流でき、公共空間の使いこなしがまたひとつレベルアップしました。

現代美術を語る。

ピクニックインタビュー

ピクニックインタビューでは、毎年ゲストを招き、くつろいだ雰囲気の中でお話を伺っています。今回は、金沢21世紀美術館の芝生広場で、同美術館の中田耕市さんと森絵里花さんにお話を伺いました。



中田耕市
金沢21世紀美術館
学芸課シニアキュレーター

普段、どのようなお仕事をされているのですか？

中田さん 私は学芸課長という立場で働いています。学芸課は、展覧会や教育普及など様々な美術館の中や外で行うプログラムの企画をし、実現させていく部署です。併せて、美術作品を収集する、集める、保管する、それを次の世代につないでいくことも行っています。私はキュレーターという職種なので、仕事的には展覧会などのプログラムを企画することが中心です。

森さん 私は交流課というところで仕事をしています。交流課は、舞台芸術やイベントや教育普及など、市民の方々、子どもたち、障がいのある人、高齢者の方々など、世代を問わずに美術館を親しんでいただけるような企画をしています。その中で私は、プログラム・コーディネーターという肩書で、作品と人、人と人を結びつけるような仕事をしています。

現代美術の魅力とは何ですか？

森さん 今を生きている作家の表現に出会えるのが一番大きいと思います。美しさの価値みたいなものも歴史の中で変わってきていると思うんですけど、現代美術だと物故作家だとしても最近ですよ。同じ時代を生きている人が全く違う考えを持っていたり、逆に共感できたり、自分の身近にある美術であることが魅力だと、私は思っています。

現代美術は生きている

中田さん 「生もの」の魅力みたいなものがあると思います。まだ何も調理されていない生ものに直接触れられる。生きている作家のつくられたばかりの作品、あるいはまだ作られていない作品がつくられていくプロセス。そういったところに立ち会える。もうひとつはメディアとしてとても優秀なものだと思っていて、現代美術ってどこにでも繋がれるんですね、同じ文化の領域の中はもちろん音楽にも演劇にもどこにでも繋がれるんですけど、文化だけじゃなく、政治や社会や経済にも繋がれるメディアで、その接続性の高さがとても魅力的だと私は感じています。



森絵里花
金沢21世紀美術館
交流課プログラム・
コーディネーター



こんな風に広場で過ごすのは初めて！
と存分にくつろがれていました

大学に入る前は芸術ってよく分からなくて退屈
と思っていたのですが、現代美術にあまり馴染
みのない人へのアドバイスはありますか。

森さん 私が思うのは2つあります。ひとつめ
は、よく観察すること。例えば1分間作品の前
に佇んでみる。ぱっと見で分からないからと
いて諦めないで、まずはそのものをよく見る。
時間を取ってしてみると頭の中に思いつきや疑
問が浮かぶと思います。そこから自分の中で連
想ゲームのように繋げていくといいかなと思
います。その後で気になったら解説を読んでみ
て何かキーワードが引っかけたら、もう一回自
分で見るとまた違って見えるかもしれません。
ふたつめは、ほかの人と一緒に見て、同じ
ものを目の前にして、喋るっていう経験は面白
いかなと思います。そうすると絶対に自分に見
えてないものがあるんですよ。お互いの連想
ゲームを交換してみると、自分が思っていな
かったことに辿り着いたり、隣の人のよく知ら
なかったことが見えたりします。



答えがないからツールになる

作品を通してコミュニケーションをするぐらい
の捉え方でも良いんですか？

森さん 私は良いと思います。金沢市の小学校
4年生全員を招待するプログラムを私は担当し
ていて、年間4000人の子供たちが来ます。こ
こでは、ボランティアさんは解説はしません。
見る主体である子どもたちの感想を聞いて、ボ
ランティアさん自身が感じたことをちょっと言
うと、連想ゲームの交換が誘発されるんですね。
それで、思ったことを言っているんだという関
係性が子供達同士で作れたりする。学校だと、
問いに対して答えがあるものが多いから、答え
がわかる人しか手を挙げられなくて、自信がな
い子は手を挙げられなくなりますよね。作品を
見て自分が思うことには良いも悪いもないの
で、全員が話せる。普段は授業についていけな
くなりがちな子の言った一言がすごくキラッと
して、盛り上がりたりもします。人と人がお互
いを尊重して付き合う力を育てていくようなと
ころにも鑑賞は生きてくるなあと感じます。

中田さん この森さんの答えは非常に正しいと
思いますので、私はあえて乱暴な答えをします
と、もっと「個人的なもの」なんだろうと思っ
ています。現代美術や美術館は自分にとっては
とても大事な存在で、いいものやカッコいいも

のが見つければそれは伝えたいですけど、一方
で、作品を鑑賞するとういう役に立ちますよ
とかこうすれば良いですよ、みたいなことはあ
まり興味ないです。現代美術は「生もの」なん
で全部が全部美味しいわけじゃないんですよ。
つまらないものもあれば、まずいものもあっ
たり、不快なものもあったりするので、別にあ
んまり何の役に立つかは考えずに何でも楽しん
でもらえばいいんじゃないかなとは思っています。
ミケランジェロの作品を前にして、この人、あ
んまり絵が上手くないねとか言いづらいかもし
れないですけど、現代美術は、気に入らないと
か好きじゃないとか言いやすいですよ。現代
美術を扱う美術館は生ものの面白さを味わっ
てもらえる場所になれば良いなと思っていて、
権威の補強みたいな事をできるだけしたくない
なと思っています。

強靭さがあれば残る

近年、都市や地域と現代美術の関わりが強くなっ
ていますが、わかりやすくしすぎたり作品の質
を顧みなかったり、都市が現代美術を都合良く
使おうとしていないでしょうか。

中田さん 確かに、口当たりが良いものとか、
誰でもが正しいよねって思われるものに向かい
がちな部分は多々あるなと思っていますし、あと
は量の問題なんですけど、これだけ芸術祭が増



えていくと、作家が全力を投入できていないん
じゃないかっていうのが分かる作品もあったりす
るんですね。それはそれで逆に面白いんですけど。
本来大事にしてないといけないはずのこうい
う部分を端折ってこんな風にもってきちゃったな
みたいな。消費されてるなーとも思いますし、た
だ一方で消費されてしまうのであれば、され
たくしてしまえば良いと思っていて、強靭さがあ
れば最終的に残るものは残るんじゃないかな
うです。少なくとも美術自体が長い間減っていない
ですよ。これまでも宗教や政治やらにいろんな消
費のされ方をされてきたはずの美術が生き残っ
ているのは、いつも生き残る術を持っているだ
ろうなという淡いけれども確かな期待はしてい
ます。



金沢21世紀美術館共同研究
金石ワークショップ & 滞在調査



北前船の寄港地としても栄えた金沢市金石地区に、2021年10月15日から11月3日まで約3週間にわたって滞在し、調査を行いました。金石地区を毎日ひたすら周遊して街路や公園での活動を観察したり、金沢21世紀美術館金石スタジオなどで小学生時代の遊び場と現在のまちの使い方について聞き取り調査をしました。最終的に、スタジオで64人、児童館で25人、街頭で26人、計115人の住民の方からお話を伺うことができました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。これらの調査をもとに、卒業研究では変化し続けてきた金石の個性を読み取っていききたいと思います。(B4 天野・坂口・中積)



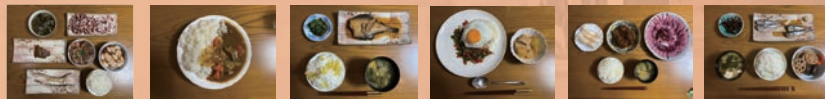
上左/スタジオにて、様々な年代の住宅地図を見てもらいながら、お話を伺いました
 上中/住民の方からご自宅で育てているお野菜を分けていただきました
 下左/ふ頭や公園など、様々な場所で聞き取りをしました
 下右/まちを案内して下さったボランティアガイド「みやのこしこまち」の皆さんと



上/子供たちに聞き取り調査をするため、児童館ではマジックショーもしました

下/子供たちに普段の遊び場を地図に書き込んでもらっている様子

金石ごはんシリーズ……滞在先の金石ハウスでは、地元の食材を使って B4 中積が毎日料理しました！

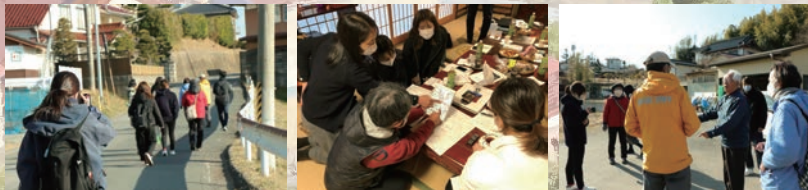


唐桑半島調査

宮城県気仙沼市の唐桑半島(旧唐桑町)の特徴の一つは、現在も生活の中で屋号が使われていることです。伊藤研究室では、旧唐桑町屋号電話帳から作成した屋号データをもとに、屋号に着目した研究を2年間にわたって行っています。2021年には3月と7月の2回現地調査を実施しました。唐桑半島の豊かな海と山や地域の方々の温かさに触れた滞在となりました。

【3月調査】

3月8日～11日に、常磐大学の且まゆみ教授らと一緒に旧唐桑町の屋号聞き取り調査を実施しました。各集落を歩きながら地域の方々に屋号の成り立ちや使われ方について教えていただきました。唐桑町まちづくり協議会の方々には半島の遊歩道をご案内いただき、レストハウスの改修提案もしました。
(M1 徳永・結城、OG 前橋)



左／まちあるきをしながら屋号と自然を調査
中／住民の方のご自宅でも屋号の聞き取り調査を行いました
右／磯の沢地区で住民の方へ屋号の聞き取り調査を行っている様子



地図と実際の風景を比較



断面スケッチをしながら調査

【7月調査】

屋号と集落の空間構成を把握することを目的に、7月18日、19日に調査を行いました。3月の調査結果をヒントに、同一文字列を共有する複数の屋号(屋号群)とその位置情報を事前に整理して、現地ではそれらの屋号の立地と地形や土地利用との関係を観察し、写真や断面スケッチで記録しました。特に、等高線からは読み取りづらい微地形や耕作地との関係は、現地に行って初めて分かりました。屋号群は比較的集まって立地する傾向がみられ、屋号群の住宅とその周辺の環境が空間的なまとまりを形成している様子が観察されました。(B4 北村・室賀、M1 徳永)

研究室活動

まちあるき



3年生の仮配属イベントとして大丸有(大手町、丸の内、有楽町)でまちあるきをしました。グループごとにオープンスペースを巡り、各場所を使いこなし写真を撮影しました。その後、写真を共有して発表を行い、教員の独断と偏見による採点で盛り上がりました。

(企画：B4 岡野・北村・室賀)

現代アート研究会



全国各地で様々な芸術祭が開催されています。その中で現代アートとは何だろう?という興味から作家と作品をリサーチして研究会で共有し、理解を深めました。また実際に芸術祭を体験するため「いちばらアート×ミックス2020+」を訪れ、小湊鐵道の駅舎や廃校を利用した様々な作品を鑑賞しました。

(D1常泉・一谷、M1土屋・徳永・東、B4大森・大山)

シビックプライド研究会



2006年から続けているシビックプライド研究会は、2021年5月に200回を数えるまでになりました。現在は次なる出版に向けて議論や調査を行っています。学生は、ポローニャの歴史をまとめるなどの作業をしました。

(M2 岩田、M1 岡村、B4 大山、OG 小島・片田江)

個人活動

新宿区景観まちづくりワーキング



新宿区の景観形成ガイドライン改定に向けたWGに参加しました。様々な大学の学生や先生との現地調査や議論を通して、今後の新宿区の良好な景観を形成するために守るべきものや新たな視点を取り入れ、見直し案を作成しました。10年前のガイドラインとの変化や街への多様な視点を学びました。(M2 前田、M1 金沢・土屋・徳永、B4 大山)

PUBLIC LIFE KASHIWA 2021 ソラニワテラス



UDC2(柏アーバンデザインセンター)による、柏駅南口のデッキに滞留空間を生み出す社会実験です。東口とは異なり、通過や乗り換え、待ち合わせでしか使われなかった空間をちょっとした滞留を生み出すことで、単調な自由通路からの転換を試みています。

(助教 高柳、M1土屋・徳永・結城、B4大山)

Park(ing)Day2021



路上空間を1日だけ人間の居場所に変えるPark(ing)Dayが国内4都市で開催されました。企画の発案から運営までを自分たちの手で進めるので居場所づくりの心得を学ぶことができます。また、今年はオンラインで各都市と意見交換をしながら企画を進めたためウィズコロナ時代のパブリックスペース活用の可能性を探る機会になりました。

(M2 前田、B4 大山)

査読付論文

常泉佑太, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 公共空間で行われるアートプロジェクトでの中間組織の役割に関する研究 —東京アートポイント計画「TERATOTERA」を事例に—, 都市計画論文集, Vol.56 No.3, pp.665-672.

公共空間の多様性を考える上で、個人の表現活動であるアートと公共空間の公共性はどのように両立するのでしょうか。近年のアートプロジェクトの増加によって、アートと地域をつなぐ中間組織の役割が期待されます。公共空間を利用してアートプロジェクトが行われる際に中間組織に求められる役割を明らかにし、中間組織が関与することによる芸術表現の場としての公共空間の可能性について考察することを目的に、アートプロジェクトTERATOTERAを事例とした資料調査、インタビュー調査を行いました。結果、公共空間を利用する際には、中間組織のアートマネジメントの専門性によるアーティストの作品性をできるだけ担保する事前の調整、空間の管理者毎に文化的意義の共有を図る交渉、責任の所在の明確化がアーティストの表現の創造性を担保することがわかりました。また公共空間の管理者に対して作品を発表する意義や地域への影響を意識して伝える役割を果たしており、中間組織の関与によってアーティストの新たな表現活動の創造につながる可能性があることがわかりました。

松下耕太, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 首都圏郊外部における鉄道駅周辺小売業の広域的空間分布とその変容, 都市計画論文集, Vol.56 No.3, pp.1199-1206.

首都圏郊外の駅周辺小売業は、複雑に構成される鉄道網によって駅間ネットワークを形成しています。近年では、幹線道路沿道の商業施設やイコマス等によって従来から駅周辺に商業集積を見せてきた市街地では衰退傾向がみられます。その様に様々な要因に曝されている駅周辺小売業についてその構成や動向を首都圏郊外部のネットワークに着目し、明らかにすることを目的としました。まず、施設規模と業種構成のデータを作成し、対象駅をクラスタリングしました。その結果、小売業において拠点性が高い駅とそうでない駅に分類され、小売機能を分担している様子が可視化されました。この傾向を定量的に捉えるため、業種毎に分類した店舗数によって空間的自己相関分析を行いました。これらの結果を人々の購買行動や現行施策等に位置付け総括としました。

対外発表論文

一谷和希, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 小石川区・本郷区における東京市電敷設による街路形状の変化に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 都市計画, 1005-1006.

東裕花里, 孫溪澤, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 新聞記事の記述表現の変化からみた青山地区の場所のイメージの変遷, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 都市計画, 923-924.

岡村集多, 金沢優輝, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 大学キャンパス周辺地域の記憶と愛着に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 都市計画, 587-58.

土屋遼太郎, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), スマートフォンを利用した自由散策時の意思決定・行動プロセスの特徴, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 都市計画, 1033-1034.

高柳誠也, 田中里実, 佃元輝, 伊藤香織(2021), 東日本大震災被災地域における新築小中学校の立地と復興事業との関係: 岩手県・宮城県沿岸部市町村を対象として, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 農村計画, 15-16.

徳永景子, 結城和佳奈, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 地理的指標から見た屋号語彙に表れる集落の地理的特徴: 「唐桑町屋号電話帳」にもとづく分析, 日本建築学会学術講演梗概集 2021 農村計画, 43-44.

伊藤香織, 森田喬(2021), 国際地図学協会(ICA)の成果と展望: 日本学術会議を通じた国際活動の推進, ユニオンセッション「1時間でわかる学術会議: 地球惑星科学分野の国際団体への支援」, 日本地球惑星科学連合2021年大会.

北村公佑, 室賀恒輝, 伊藤香織, 高柳誠也(2021), 集水域からみる屋号群の地理的分布, CSIS Days2021 全国共同利用研究発表会, A06.

中井祐, 小野田滋, 北河大次郎, 石田哲也, 手塚正道, 原健悟, 井谷計男, 高柳誠也, 西村祐人, 網倉朔太郎, 谷川晃介(2021), 日本における最初期のポストテンションPC桁・遠山川第四号橋梁について, 土木史研究講演集 2021, vol.41, 235-236.

Kaori Ito (2021), What Elements Can Be Regarded as Sources of Civic Pride?, the 34th International Geographical Congress.

Kaori Ito, Asahi Maeda, Kota Katsumata, Seiya Takayanagi (2021), How Do People Make Decisions With/Without Smartphones While Walking in the City?, the 30th International Cartographic Conference.

Yuta Tsuneizumi, Kaori Ito, Seiya Takayanagi (2021), Location of Art Gallery in Urban Areas: a GIS Based Analysis in Shinagawa Ward, Tokyo, the 30th International Cartographic Conference.

修士論文・卒業論文

<2020年度修士論文>

東京市電敷設による本郷区・小石川区の街路形状の変化

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりに向けたまちなかウォークアブル推進事業の傾向

ランドリーカフェの使われ方と利用者意識

新聞記事の記述からみた寄せ場型地域の変遷—山谷地区・あいりん地区を対象として—

公共空間で行われるアートプロジェクトに関する研究
—東京アートポイント計画「TERATOTERA」を事例として—

持続可能な観光開発の観点からみたゲストハウスと地域社会の相互関係
—東京都台東区を対象として—

新国立競技場建設に至る計画プロセスの実態と課題—計画者と市民・専門家との争点に着目して—

首都圏郊外部における駅前小売業の広域的空間構造とその変容

旧市街区の保全・活性化における課題
—中国南京市歴史文化名城保護計画における老門東の改造を事例として—

<2020年度卒業論文(通年)>

大学卒業生のキャンパス周辺地域への愛着に関する研究
—在学時の体験に基づく記憶から—

スマートフォンを利用した自由散策時の意思決定・行動プロセスの分析

東日本大震災被災地域における新築小中学校の立地特性と地域での役割
—岩手県・宮城県沿岸部市町村を対象として—

<2021年度卒業論文(半期)>

旧唐桑町における屋号群の領域性とその空間構成

金沢21世紀美術館の屋外空間における滞留行動の特性
—美術館と公園の性質に着目して—(最優秀卒業論文賞)

居住誘導区域における災害リスク
—規模の異なる洪水浸水想定に着目して—(優秀卒業論文賞)

一谷和希

菊嶋勇介

鈴木晴瑛

田邊真弓

常泉佑太

中谷幹介

林卓弥

松下耕太

劉傑峰

岡村隼多 金沢優輝

土屋遼太郎 長井香南

田中里実 佃元輝

北村公佑 室賀恒輝

大森彩香 大山優

島茉莉香 平井聡一郎

修士設計・卒業設計

<2020年度修士設計>

表現媒体としての建築—路地の視覚体験に着目して—

アドホックな公共建築—三原市鷺島を対象として—(修士設計最優秀賞)

渋谷のアジール—現代都市の祝祭空間—

<2020年度卒業設計>

竹下通りにとまろう!

商店街×集合住宅—賑わいの中に住む—

DROP in laboratory—科学に出会うプロムナード—

石にトマリ、石を感じるワイナリー(卒業設計優秀賞)

ナラティブを紡ぐネットワーク(卒業設計優秀賞)

小山朝子

齋藤匠

高梨淳

孫溪澤

徳永景子

東裕花里

前橋宏美

結城和佳奈



人口が600人ほどの‘鷺島’で島民の暮らしを体験し、島の生業の魅力を発信する公共建築を、使い手自身がハードとソフト両方において関わり続けるプロセスを含め提案する。

(齋藤匠)



膨大な凝灰岩の地層に恵まれる大谷町には、多くの採石場跡の地が放置され、荒廃の一途をたどっている。この地が死を迎える前に新たな産業の芽として、ワイナリーを計画する。

(前橋宏美)



福井県越前市には伝統産業が多く存在するが衰退の一途をたどる。舟運の歴史を持つ暗渠をまちに開き交通・産業のネットワークを再構築、まちの再生を計画する。

(結城和佳奈)